

新城小UD

学習のねらいを明確にするための焦点化のポイント

単元構想の工夫

単元づくり

- 付けさせたい力（読み取る、想像するなど）を明確にする。
- 児童の初発の感想や疑問等を生かして単元を組み立てる。
- 前時とのつながりや山場までの流れを意識して、各時間を設定する。
- 学習のゴールとなる言語活動に向けて、読み取りの学習を進める。
- 単元を通して、または、1単位時間においての効果的な言語活動を設定する。



◎言語活動の例

- ・感想の伝え合い
- ・あらすじの記述
- ・リーフレット
- ・音読劇
- ・主人公への手紙
- ・関連する本の紹介
- ・続き話やサイドストーリー など

1 単位時間の授業づくり

- 読みの視点（主人公、その他の登場人物、作者など）を設定して、多様な角度から物語を読ませる。
- 考えを交流する時間を計画的に設定する。
- 場面や段落ごとに読み取ったことを言語活動の前に振り返る時間を設定する。

学習課題・発問の精選

焦点化を図るための学習課題

- 「気持ち」「様子」「わけ」など、考えさせたいことを明確にしたもの

- 分かりやすい言葉や教科書で使われている言葉を用い、児童が捉えやすいもの

- 達成できたかをはっきりと振り返られるようなもの

- 学年段階に応じて学習課題の提示の仕方を工夫する。
例) 挿絵を使う、色チョークでキーワードを示す など

ねらいに結び付けるための発問の工夫

- 根拠を明確にして、考えを深められるような発問
例) 「なぜ、そう考えましたか」 など

- 考えと叙述を結び付けたり、叙述を振り返ったりする発問
例) 「どこに書いてありましたか」
「どの言葉から考えましたか」 など

- 空所や変容を考えさせる発問
例) 「どこで変わりましたか」 など
*空所・・・様子や気持ちが書かれていないところ

- 児童が自分の考えを持ちやすいような工夫
例) Which 型発問、選択肢 など